

啓発地域まちづくりワークショップ議事概要

日 時：令和7年10月17日（金）19:00～20:40 場 所：啓発センター

出席者：27名（地域22名、区役所3名、コンサルタント2名）

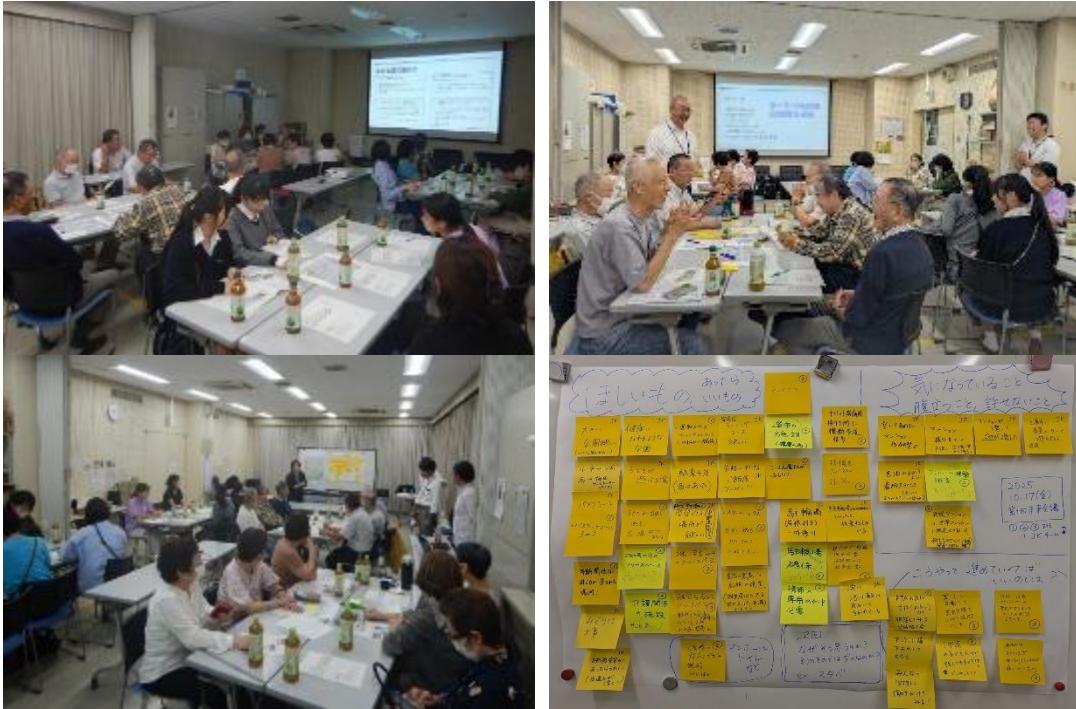
【議事】

- 1 ごあいさつ、ワークショップの趣旨説明
- 2 話題提供 「成功事例から学ぶ」（高岡さん、コンサルタント）
- 3 ワークショップ
 - (1) フリートーク（事例から感じたこと、こうすればいいと思ったこと 等）
 - (2) 子ども達の声を聞く
- 4 次回以降の予定

《配付資料》

- ・「第1回 未来会議」資料

《開催時の写真》



1. ごあいさつ、趣旨説明

-
- ・東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会部会員、啓発地域活動協議会会員の高岡さんから、「啓発地域の未来を地域の皆さんと一緒に考えたい。啓発地域だけでなく、広域な視点からも考えていくべき」というごあいさつがありました。
 - ・「今回のワークショップの目的は、新大阪駅を中心に官民挙げてエリア開発の検討が進んでいる現在、近い将来、少し先の未来、子や孫が幸せに暮らせる未来について、地域住民の思いや夢を提言する機会としたい」との説明がありました。

2. 話題提供 「成功事例から学ぶ」(高岡さん、コンサルタント)

- ・配布資料及びスライドを使って、高岡さん、コンサルタントから説明しました。
- ・紹介した事例は、阪急洛西口～桂駅の高架下の利活用事例、「まちライブラリー」@もりのみやキューズモール・ジオタワー大阪十三マンションギャラリー、もと淀川区役所跡地の活用事業、阪神電鉄本線の連続立体交差事業の4つです。

3. ワークショップ

(1) フリートーク (事例から感じたこと、こうすればいいと思ったこと 等)

- ・成功事例を踏まえて感じたことを、各自付せんに書き出し、班ごとに発表したものを、コンサルタントが1枚の模造紙にまとめていく方法で行われました。

<ワークショップで出た主な意見>

◆啓発地域にほしいもの、あつたらいいもの

- ・大きい公園が欲しい (小さな公園しかない)
- ・健康になれるような公園、運動施設・運動スペース、安全なランニングトラック (やわらかい舗装)、テニスコート、バスケットコート
- ・子どもが遊べる場所、雨が降っても遊べるところ、子どもが自由に使える広場 (裸足で遊べる)
- ・年齢に関係なく誰もが集まれる場所、地域の方のフリースペース、大人がリラックスできる場所、落ち着ける場所、図書館を含めたフリースペース、自主的な企画やイベントができる場所、高齢者のためのフリースペース (いろいろな人とおしゃべりできる、ふれあい喫茶のような)、子どもや学生のためのフリースペース、自転車で行ける・学生優先の・静かな学習スペース
- ・駄菓子屋さん (昔はあった)
- ・気軽に行けるご飯屋さん (ワンコイン)、スターバックス、自由に使えるカフェスペース、店舗の誘致 (雑貨屋以上大手巨大スーパー未満)
- ・映画館があったら嬉しい／プリクラのあるゲームセンター
- ・みどりは大事
- ・駐輪場 (屋根付き、一時預かり)、レンタサイクル
- ・災害時に対応できる施設 トイレなど

◆啓発地域の課題、気になっていること、腹立つこと、許せないこと

- ・高架下に行き来ができる抜け道をたくさん設ける
- ・キリスト教病院を抜けたところに横断歩道・信号
- ・駐輪場を作ったら、きちんと料金を払って停めない人・放棄する人が出る

- ・駅近辺（特に淡路駅には相当数）駐輪場が必要
- ・淀川の河川敷は「子どもが行ったら危ない」と言われている
- ・空き地や空き家があるのに、マンション（特に単身者向け）を作るのを禁止してほしい、ワンルームマンションを拒否したい
- ・マンションが建つとごみが増える。一戸建てを優先。空き地や空き家がなくなってからマンションを作るべき
- ・まちづくりのため、新築マンションはファミリー向けに限定できないか。
- ・マンションの工事現場に設置されている騒音計測機で、夜中に大声を出して遊んでいるやつがいる。とても迷惑
- ・民泊をしている家やマンションは、わかりやすく大きな看板を出してほしい。まちがえて入ってこられて迷惑
- ・まち全体に統一感がほしい

◆こうやって進めていけばいいのでは

- ・行政・住民・アドバイザーの意見がまとまったところでは、まちづくりは成功している
- ・阪急洛西口はスペースがゆったりしている点が良いと思う
- ・啓発地域だけで決めてよいのか？下新庄・淡路・柴島の意見も聞きながら
- ・今日のように、若い人と年寄りの意見交換をしっかり設けるべき
- ・小中学校、高校の子ども達、生徒達だけで話してもらうと意見やアイデアが出やすいのでは？
→どうやって学校とつながるか？
- ・PTAや学校協議会で学校と相談してみる。
- ・アンケートをとる、ご意見箱を置かせてもらう

(2) 子ども達の声を聞く

- ・高岡さん、コンサルタント、地域づくりアドバイザーから、参加していた高校生に質問する形で意見をさらに引き出し、模造紙に追記しました。

4. 次回

-
- ・次回のワークショップの開催は、12月頃を予定しています。今回出てきた意見を、さらに深堀し、「なぜそう思うのか？別のもの・方法ではダメなのか？」（例：スターバックス）などを考えます。
 - ・参加した高校生達から、「次はいつやるの？」「楽しかった」「バイトを休んでまた参加したい」「お菓子があればもっといい」といった声が出ました。

以上